

ベストクラス選定理由書

作成者：宮崎・人見・野添・弓場・阿部・西脇・有馬・初田

科目名称	国語学演習Ⅱ		
	(担当教員名：田中雅和)		
課程	学部・大学院 (修士・専門職)	開講時期	前期・後期
授業形態	演習	授業規模	30人以下
インタビュー対象教員名	田中雅和		
	(実施日時： 2020年8月7日 (金) 2限 ; 実施場所： ZOOM上)		
インタビュー対象受講者名	高見知沙 田中風子		
	(実施日時： 2020年8月7日 (金) 2限 ; 実施場所： ZOOM上)		
選定理由	<p>アンケートでは、学生が主体的に参加し、ものの見方や考え方の変容を実感できる授業であったと捉えられていた。その理由として、インタビューでは、以下の点を確認することができた。</p> <p>① 講義より演習が重視されていたこと 授業は初めのほうに辞書の使い方を学ぶという講義があるものの、それ以外では演習中心の活動となっており、受講生は問いを立て、根拠に基づいて検証し、発表、議論するといったアクティブラーニングを体験することができていた。</p> <p>② 論理的に思考すること アクティブラーニングを経験するにあたり、最も重視されていたことは、活動の中で、問題を発見すること、そこから課題を設定し、調査分類検討、考察検証、発表プレゼン、意見交換討議を通して、論理的な思考方法を育てることであった。</p> <p>③ 意見が言いやすい雰囲気 これは、受講生が特に感じていることである。 教員は受講生の意見を「新しい見方」として考えることもできるとし、受講生の意見を否定することなく授業を進めていた。それにより、受講生は自分の意見が言いやすくなるだけでなく、ほかの人の新しい考え方に気づくことが出来るようになっていく。</p> <p>④ 授業内容の濃さ これは、受講生の中でも一番多かった理由であり、授業の発表でほかの受講生の内容についても深くかかわるため、実質15回やったようなもの、という感想もあった。 授業展開としては、初めは授業内での班活動としてスタートするものの、受講生同士で日程を調整し、授業外でも主体的に課題に取り組む必要があった。このことから、授業準備が大変であったがそれゆえの充実感と達成感を得ることになっていた。</p> <p>⑤ 教師になった後に活用できるスキルの獲得 調べ学習の際に身に着けたスキルは、教師になった後に役に立つ知識がたくさんあると捉えられていた。「結果だけでなく方法を重視して指導できるようになる」、「情報をひとつだけ探しているより、複数検討する過程を重視する」や、「教科横断的な指導のための知識 (多角的・多様な見方)」など、これらの考え方とスキルを身に着けることができていた。</p> <p>上記の理由により、ベストクラス候補にふさわしいと考える。</p>		